

3月に、野田地区健全育成推進会より、会報の執筆依頼が届いた。昨年度も執筆した。とりあえず、昨年度はどんなことを書いたのかとパソコンのデータを見てみた。

ふるさと自慢

野田中学校 高澤正男

子どもたちは、それぞれの家庭で育ち、学校で成長し、地域に見守られながら大人になっていきます。野田地区の子どもたちは、福島市で生活していますが、野田地区で大事に育てている子どもたちです。どの子も大切な大切な子どもたちです。

子どもたちは、これから、地元に残り地域の発展のために力を尽くす人材、福島県の復興のために汗を流す人材、日本の未来のために活躍する人材、海外に羽ばたき国際社会の舞台上で活躍する人材などになっていきます。

日本にいても、海外にいても、ぜひ自分のふるさとを自慢できる人間になってほしいと思います。福島県、福島市、そして野田地区を誇りに思い、そのすばらしさを広めることができるような人になってほしいのです。

自分が生まれ育った土地を愛し、大事にする人間は、人を愛し、人のために働くことができる人間となります。世の中のために尽くす人になることができます。

子どもたちにとって地元である野田地区が、いつまでも温かく居心地のいい場所であることが重要です。青少年健全育成推進会が、そのための中核となり、野田地区が益々発展し、健やかな子どもたちを育てていく地区となるよう願ってやみません。

こんなことを書いていた。さてと考えた。以前から書きたかったことがある。それは「木と土と風」である。この機会に書くことにした。

木と土と風

野田中学校 高澤正男

地域にとって子どもたちは、木のようなものです。では、土にあたるのはというと、それが地域です。こう考えると、地域の重要性が際立ってきます。

栄養分や水を豊富に含んだ、いい土に根を下ろした木は、すくすくと成長し、立派な幹となります。枝には勢いよく葉が広がります。やがては、大きな実をそなえることでしょう。

学校の教員は、どんな存在なのでしょう。風のようなものです。一つの学校に勤務するのは数年間です。時機が来れば、次の職場へと異動します。その地域や学校にとっては、わずかな期間かもしれませんが、どんな風を吹き込むかは大切なことです。どの教員も、枝葉を揺らすような心地よい爽やかな風になりたいと考えています。

土がよければよいほど、木はよく育ちます。いい土にするためには、地域の協働や連携が欠かせません。その中核を担うのが、青少年健全育成推進会です。子どもたちのために地域ができることを推進していく大切な組織です。これからも、その重要性は変わりません。いや、益々その使命は大きくなっていくかもしれません。

今の時代だからこそ、今一度、地域のよさや地域ができることに目を向けるべきなのだと考えます。野田地区の木と土と風が、どこにも負けない誇れるものになることを願っています。

今年度も、風である教員として、爽やかな心地よい風を野田地区に吹き込みたい。